



京 都 市
〔担当：消防局総務部庶務課〕
電話：212-6629〕

「京都市消防活動総合センター」の全面運用開始について ～全国トップレベルの消防・防災活動を支える、最先端のセンターが完成！～

京都市では、消防職員、消防団員及び自主防災組織等の訓練・研修機能と大規模災害時の全国的な消防応援部隊である「緊急消防援助隊(※1)」の活動支援機能を併せ持つ、全国初の「京都市消防活動総合センター」の整備を順次進めてきました。

この度、平成 17 年 3 月に完成した第 1 次整備分に引き続き、第 2 次整備分の整備が完了し、本年 4 月から全面運用を開始しますので、お知らせします。

今回の整備により、京町家や 3 階建て住宅等の京都の町並みを自由に再現できる全国初の「街区訓練場」での消防訓練のほか、地下街における火災から山岳救助まで、あらゆる災害を想定した実践的な訓練が可能となります。

また、地震等の大規模災害時には、「本館・消防学校」内の研修施設を作戦情報室等に有効活用することにより、全国から派遣される最大 471 隊・2,136 名の緊急消防援助隊員の長期にわたる救助活動等を支援することができます。

なお、同センターの竣工式は、3 月 15 日(日)に行います。

記

1 施設概要

- (1) 建設場所 南区上鳥羽塔ノ森下開ノ内他
〔名神高速道路京都南インターチェンジ，国道 1 号線・171 号線に近接〕
- (2) 敷地面積 約 34,000 m²
- (3) 施設内容

	整備施設	機能等の概要	
		平常時	大規模災害時
第 1 次整備分	管理棟・整備棟 〔整備内容〕 車両点検整備室 空気・酸素充填室 等	活動支援施設 ・本部救助隊(※2)，特別装備隊(※3)の配置，運用 ・消防車両の点検整備 ・活動器材の備蓄，補給	→ 後方支援拠点 ・援助隊への活動器材，燃料の補給 ・援助隊の車両，器材の緊急修繕 ・本部救助隊，特別装備隊の運用
第 2 次整備分	本館・消防学校 〔整備内容〕 作戦情報室 理化学実験室 教育・研修施設 等	消防学校 ・新規採用職員の研修(全寮制) ・消防職員の教育研修 ・消防団員の教育研修 ・火災に関する鑑識 等	→ 作戦情報室 ・消防指令システムを活用した援助隊の指揮統制 ・消防機関相互の情報連絡 ・援助隊の受付・登録 ・援助隊への情報提供 ・援助隊の待機，宿泊施設

第2次整備分	救助訓練棟	ロープ渡過等の救助技術訓練を実施	→援助隊集結場所 ・援助隊の車両集結場所 (消防車両最大471台分収容可能) ・ヘリコプター緊急離着陸場 ・援助隊の待機・宿泊施設 ・物資の荷捌場
	屋内・水上訓練棟 [整備内容] 屋内訓練場 水上訓練場 (25mプール) 潜水訓練場 (水深 10m) 等	水上訓練場では、ポンプにより水流を発生させ、河川等の流水域での水難救助訓練を実施。	
	総合訓練棟 [整備内容] 実火災訓練室 山岳訓練場 地下街訓練室 洞道訓練場 等	3つの階にわたった複数の部屋(8室)で任意に燃焼箇所を設定し、実際に火災を発生させた訓練を実施。	
	街区訓練場(可動式)	京町家の構造を再現した建物など、14棟の建物で構成	

- (4) 総事業費 総額約 111 億円
 【内訳】 第1次整備分 (約 23 億円)
 第2次整備分 (約 88 億円)

2 特 徴

(1) 平常時

- 京町家や3階建ての住宅等、京都の様々な町並みを自由に構成して、消防訓練を実施できる全棟可動式の「街区訓練棟」を整備【全国初】
- 実際に火を燃やして火災の進行に伴う煙の充満状況や熱をリアルに再現し、逃げ遅れた人の救助や消火訓練を行うことのできる「実火災訓練室」では、3つの階にわたった複数の部屋(8室)で任意に燃焼箇所を設定できる。【全国初】

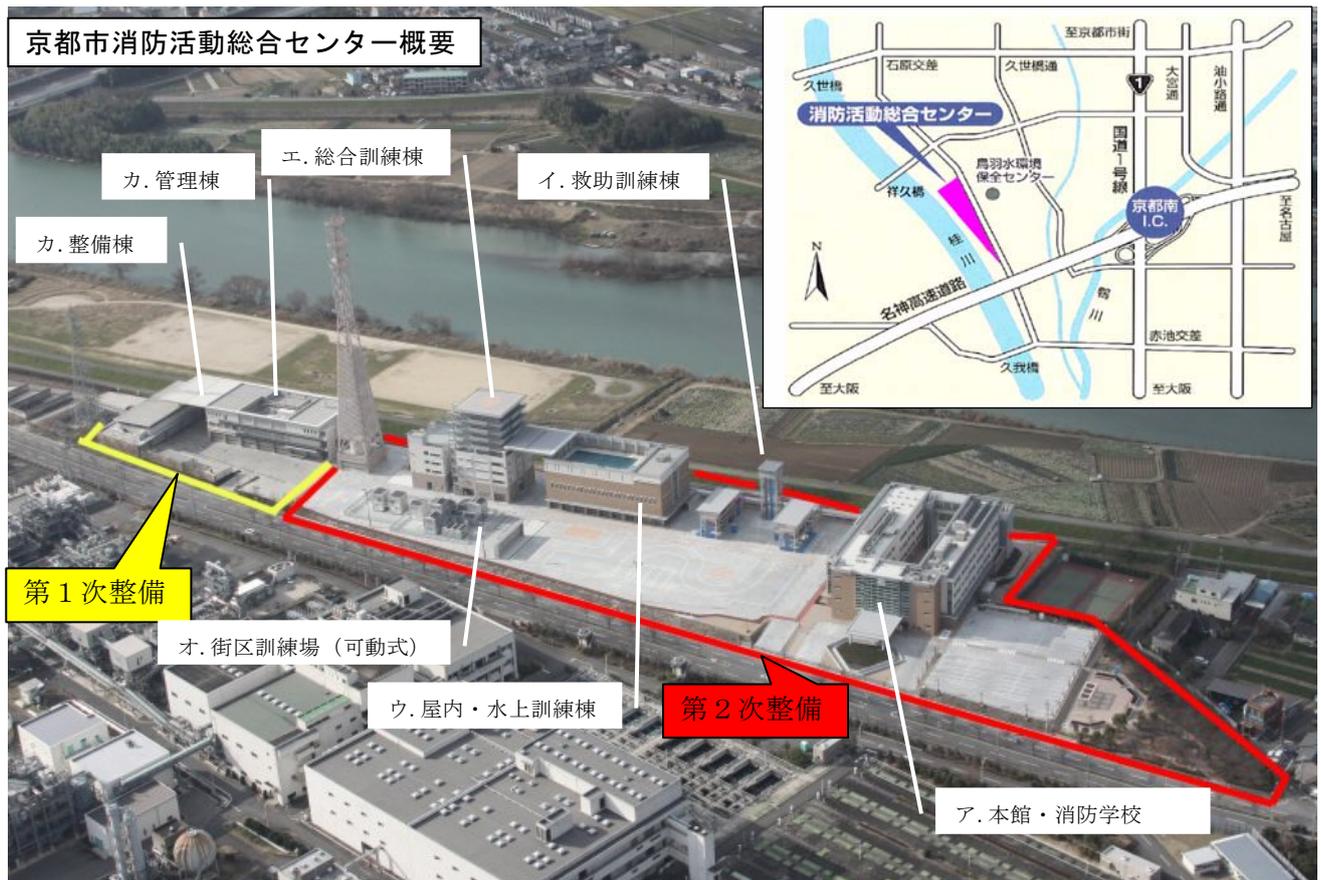
(2) 大規模災害時

- 援助隊の集結場所として、本市へ派遣される最大 471 隊 2136 人を収容可能
- 消防局の指令システムと直結する情報作戦システムを活用した効率的な部隊運用が可能
- 援助隊の活動に必要な活動器材や燃料の補給などの後方支援機能を保有し、長期にわたる災害活動に対応可能

※ 集結場所、作戦情報室及び後方支援施設が1箇所に集約された施設は、**全国初**です。

(3) 環境対策

- トイレや車両洗浄等に使用する1日約 15 m³の雑用水は雨水・井戸水を使用
- 放水訓練で使用する約 200 m³の訓練用水は、雨水を循環再利用
- 実火災訓練や燃焼実験で発生する煙は、湿式電気集塵機で処理
- 会議用テーブルやベンチ等に京都市地産木材「みやこ^{そまぎ}杉木」を使用



3 竣工式について

(1) 実施日時

平成 21 年 3 月 15 日（日）
午前 10 時 00 分から午前 11 時 30 分まで

(2) 場 所

京都市消防活動総合センター 消防学校本館

(参考)

※1 緊急消防援助隊

阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、国内で発生した大規模災害に迅速に対応するために平成 7 年 6 月に発足した全国的な消防機関相互の応援部隊。
大規模・特殊災害発生時には、消防庁長官の指示又は求めにより部隊が出動。

※2 本部救助隊（スーパーレスキュー）

平成 17 年 4 月 1 日、震災・水災等の大規模自然災害やNBC災害等の特殊災害をはじめ、あらゆる災害に迅速・的確に対応するための高度な救助能力・器材を持つ消防局直轄の特別高度救助隊。

※3 特別装備隊

平成 11 年 4 月 1 日、災害現場活動の支援体制の充実を図るため、消防局装備課に配置した京都市の部隊。

24 時間体制で電源照明車、空気充填車（消防隊員が現場活動で使用する空気呼吸器用のボンベに空気を充填する装置を積載した車両）、クレーン車、多目的物資搬送車等を運用し、災害現場で活動する部隊の支援活動を行う。

※4 各施設の詳細

ア 本館・消防学校

階 数	地上4階
延床面積	6,925.12 m ²
特 徴	○主に教育，研究施設として利用。 ○「緊急消防援助隊」受入時は，作戦情報・支援室等を活用して同援助隊の指揮統制を行う。
主 要 室	普通教室，大教室，理化学実験室，作戦情報室，救急実習室，寮室 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  ※作戦情報室 </div> <div style="text-align: center;">  ※救急実習室 </div> </div>

イ 救助訓練棟

階 数	地上2階
延床面積	342.00 m ²
特 徴	ロープ渡過等の救助技術訓練を行う。
	

ウ 屋内・水上訓練棟

階 数	地上3階
延床面積	1,884.76 m ²
特 徴	○屋内訓練場，水上訓練場（25mプール）及び潜水訓練場（水深10m）を備える。 ○屋内訓練場では，雨天時にも小型動力ポンプ付軽積載車を乗り入れての消防訓練や救助訓練等を実施することが可能。 ○援助隊受入時には，バックスペースや物資荷捌場として使用。

<p>主な施設</p>	<p>屋内訓練場，救助技術訓練施設，トレーニングルーム，水上訓練場，潜水訓練場</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: flex-end;"> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>※屋内訓練場</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>※水上訓練場 河川等の流水域での水難救助訓練が行えるように，ポンプにより水流を発生させることができます。</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>※潜水訓練場 気泡を発生させて視界状況を変化させることができます。</p> </div> <div>  </div> </div>
-------------	---

エ 総合訓練棟

階 数	地上 5 階 地下 1 階
延床面積	3,644.10 m ²
特 徴	<p>○各種消火・救助訓練など高度な消防訓練を実施する訓練施設。 ○高層ビル災害訓練に対応した訓練鉄塔や，地下災害を想定した地下訓練室など，様々な災害状況に対応した各種訓練施設。</p>

主な施設

地下街訓練室，実火災訓練室，燃焼実験室，危険物判定室，訓練検討室，模擬防災センター，訓練用非常用エレベーター，洞道訓練場，山岳訓練施設，震災状況訓練場



※高層階へのはしご車による救助訓練



※山岳訓練場



※地下街訓練室



※実火災訓練室



※洞道訓練場



※訓練検討室

オ 街区訓練場（可動式）

特 徴	<p>○14 棟の建物で街区を形成し，京町家の構成を模した和風のものや，木造風，バルコニーのついた共同住宅風のものなどで構成。</p> <p>○建物を構成する材料は，放水を伴う訓練上，アルミニウム等の金属を使用している。</p> <p>○建物はすべて可動式となっており，街区のレイアウトを自由に変更することや，援助隊受入時には集結スペースを確保することが可能となる。</p>
主な施設	<div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>※京町家風建物</p> <p>京都市内に多く存在している京町屋ならではの構造を踏まえた消防活動を習得することは，市民の生命と財産を守るためには欠かせません。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-top: 10px;">  </div>

カ 管理棟・整備棟

階 数	地上 3 階
延床面積	2 棟計 3,911.24 m ²
特 徴	<p>○本部救助隊及び特別装備隊の活動拠点，消防車両の点検整備等を行う。</p> <p>○援助隊受入時には，車両や活動機材のメンテナンス，燃料の補給等を行う後方支援拠点となる。</p>
主な施設	<p>○管理棟 車両庫，備蓄倉庫，事務室，会議室，訓練指導室，作戦室</p> <p>○整備棟 車両点検整備室，塗装室，部品整備庫，危険物倉庫 空気・酸素充填室，自家用給油取扱所，ホース修理室</p>